



# 見附は今、 「個が輝くとき」



# 連続性を重視した お得感ある学校評価

2010年12月14日

新潟県見附市教育委員会



## 見附の提案！学校評価、10のポイント

～見附の取組から見えてきたこと～

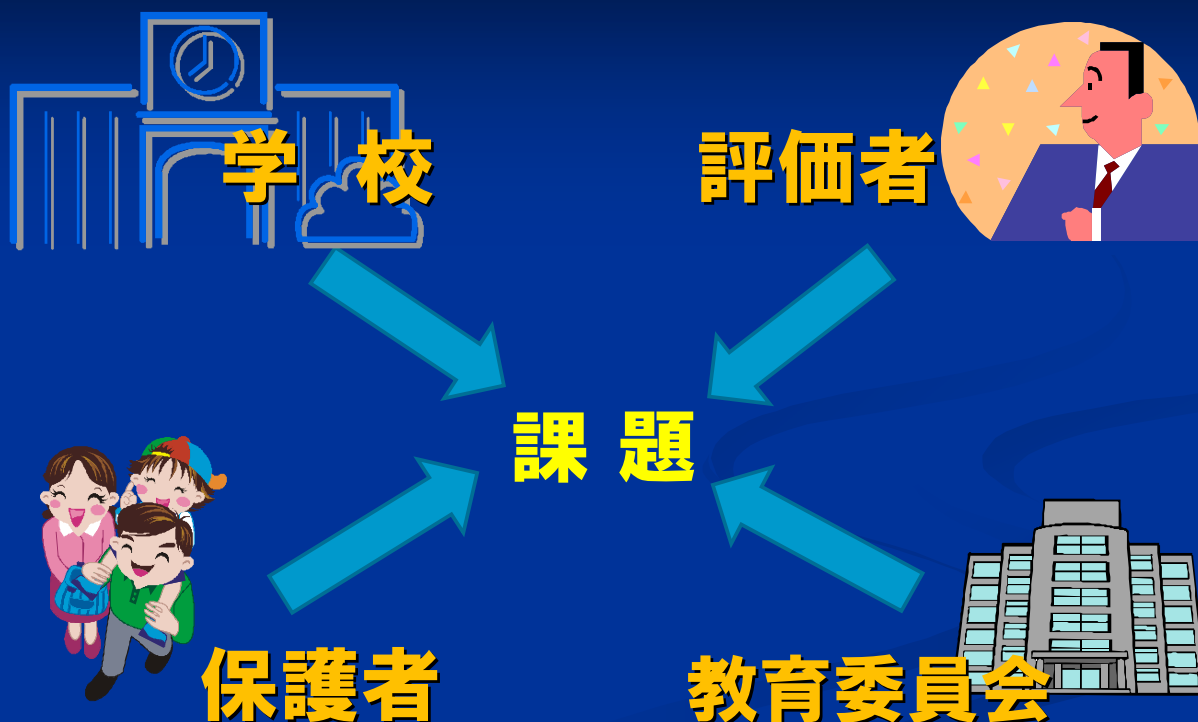
- ①市の課題と学校独自の課題を受けて、評価項目を設定しましょう。
- ②「学校評価アドバイザー制度の導入」や「評価力向上研修の充実」を図りましょう。
- ③あらかじめ、学校関係者評価委員と課題の共通化を図るとともに、評価計画についての理解を得ておきましょう。
- ④日常的に、さまざまな学校情報を収集・整理しておきましょう。
- ⑤「ISQSシステム」などのアンケート処理ソフトの活用を積極的に図りましょう。
- ⑥アンケート結果も大事ですが、複数の「ものさし」から十分に話し合うようにしましょう。
- ⑦伝わる「学校評価だより」を目指し、具体的なデータや子どもの変容の姿を重視した内容にしましょう。
- ⑧学校評価を連続性・継続性のある取組にするために、特に「改善策」を明確にしましょう。
- ⑨保護者・地域、教育委員会との連携が不可欠です。遠慮せず、協力や援助を願うことを明記した報告書を作成しましょう。
- ⑩次年度の事業計画や予算要望に生きるよう、評価の実施時期を工夫した評価計画を立てましょう。

## I これまでの学校評価の取組

◆10のポイントの取組の課題は？



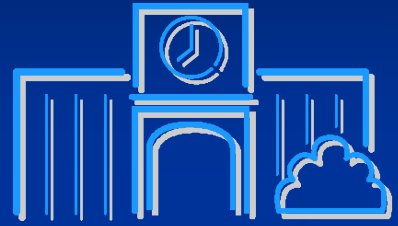
## 学校評価をめぐる課題



# 学校評価をめぐる課題

## 学校の声

- ・うまく伝わらない
- ・適切な改善策が見い出せない
- ・学校だけでは解決できない課題が多い
- ・やや、させられている感じがする



# 学校評価をめぐる課題

## 保護者の声

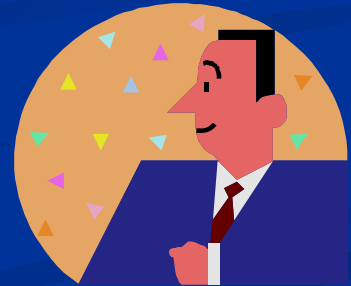
- ・成果の伝わる公表をしてほしい
- ・学校以外の子どもの活躍を評価して
- ・評価結果と自分の子とのずれ
- ・学校の方針が年度ごとにたびたび変わる



# 学校評価をめぐる課題

## 評価者の声

- ・資料を十分理解しないうちに評価している
- ・他校の実態も踏まえた評価も必要
- ・自分の評価の目を鍛える
- ・努力や成果を認め元気づける



# 学校評価をめぐる課題

## 教育委員会

- ・評価結果に基づく支援が必要
- ・地域や学校の規模や特色を踏まえて
- ・財政的に第3者評価の経費削減
- ・地域支援本部と連携した学校評価の生かし方
- ・市民に分かりやすい公表の仕方
- ・評価者の人選に工夫の余地



# 取組の方向性

- 評価力の向上
- 具体的改善策を見いだす
- 学校の特色や地域性を踏まえた評価
- 市民・地域への公表と工夫
- 教育委員会の支援
- 学校・コーディネーターとの連携
- 学校と評価者が課題を共有
- 計画的な学校評価の推進

**「連続性」と「お徳感」**

## 改善に向けた見附の8つの取組

1

学校評価アドバイザー

2

スペシャルアドバイザー

3

学校地域の特色を生かした学校評価

～「三つの類型」を生かして～

4

「地域の声」を学校へ

～「エプロン特派員」制度～

# 改善に向けた見附の8つの取組

5

## 公表の工夫

～「スクールアカウンタビリティinみつけ」の実施～

6

## 教育委員会の支援

～学校裁量予算の導入～

7

## 共通アンケートの実施

8

## SQS(アンケートシステム)の導入

1

## 学校評価アドバイザー

- 学校評価の進め方のアドバイス
- 具体的な評価力の向上



専門的なアドバイス





# 学校評価アドバイザー



「学校評価に生きる有効な資料とは」  
(前半グループ研修)

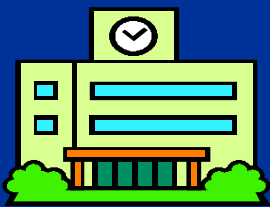
学校関係者評価委員研修会  
＜11月16日(火)開催＞



「学校関係者評価委員の役割とは」  
(後半アドバイザーによる講話)



# スペシャルアドバイザー



学校評価を受け  
ての解決策？



専門家の助言



具体的改善策

## ★ 3 学校や地域の特色を生かした第3者評価

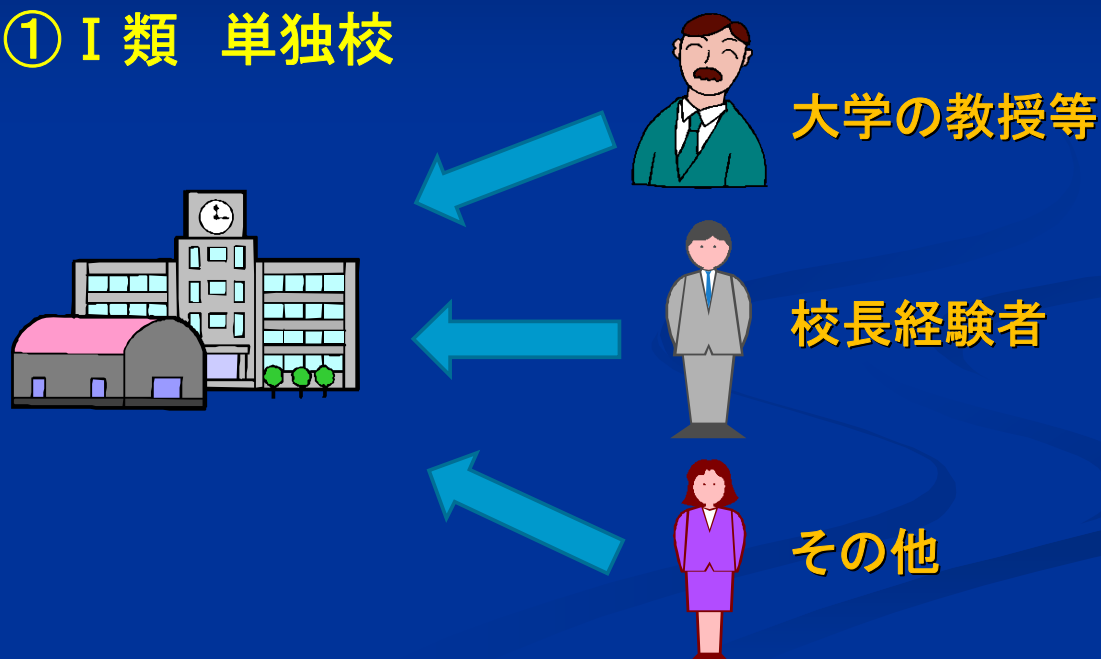
### ◆「三つの類型」による評価の実施

- (1) I 類 単独校
- (2) II 類 小中連携教育校
- (3) III 類 小規模連携校(みつばプラン校)



## ★ 3 学校や地域の特色を生かした第3者評価

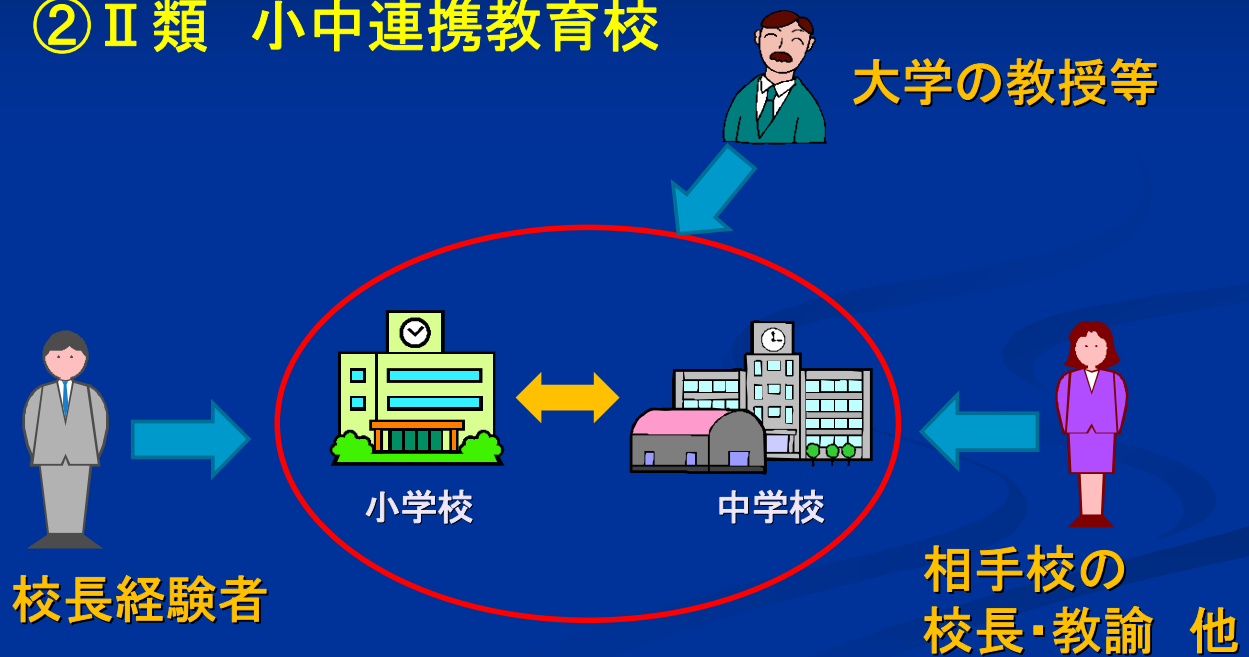
### ① I 類 単独校





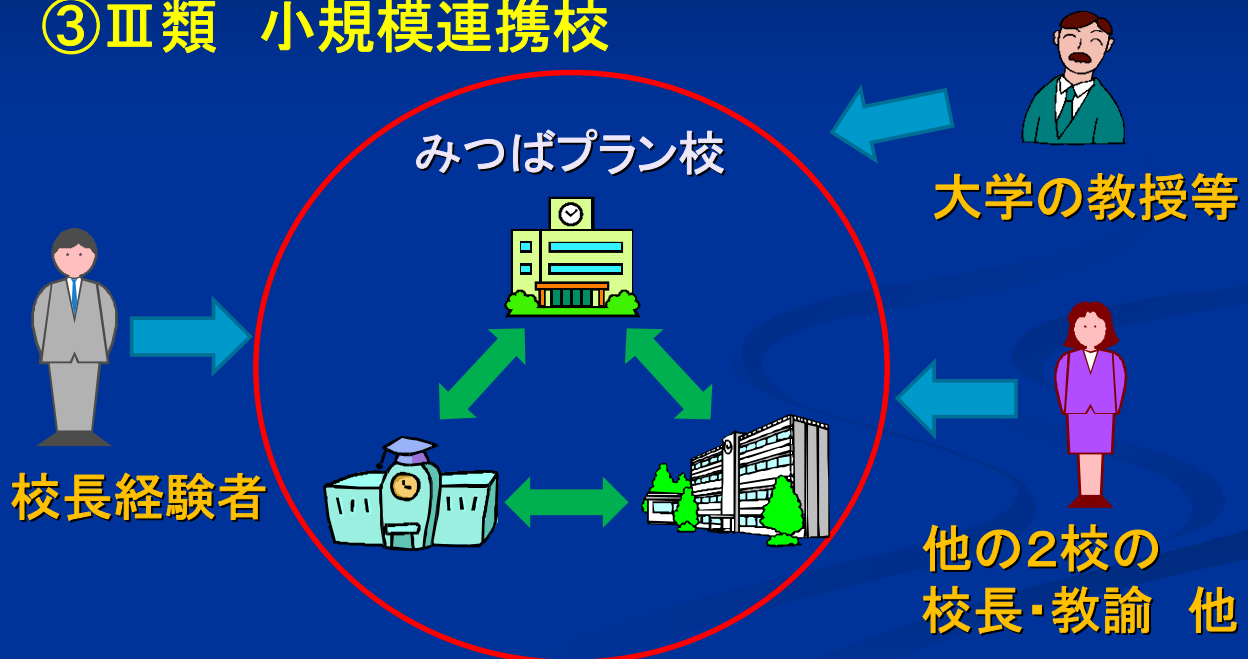
★ 3 学校や地域の特色を生かした第3者評価

② II類 小中連携教育校



★ 3 学校や地域の特色を生かした第3者評価

③ III類 小規模連携校



# ★ 3 学校や地域の特色を生かした第3者評価

## ＜三つの類型の長所＞

三つの類型	長所
I 類 単独校	固有の課題を掘り下げることができる。
II 類 小中連携教育校	9年間のスパンを通して、連続した評価がしやすい。
III 類 小規模連携校 (みつばプラン校)	小規模校の特色を生かした三者三様の取組を比較・検討できる。

# ★ 4 エプロン特派員制度

## 応援メッセージ





## 公表の工夫

スクールアカウンタビリティでの公表 11/14



「見附子育て教育の日」  
で全市民に取組を紹介



## 公表の工夫



学校支援地域本部の  
コーディネーターと共に運営





# 公表の工夫

## 学校評価だよりの発行

### 国語力の向上

～自ら考え自分の言葉で表現する子を目指して～

#### <取組>

- (1) 学んだことを自分の言葉で書くための工夫。1時間の授業や単元の終わりに、「分かったこと」や「気付いたこと」「まとめ」などを位置づけています。
- (2) 豊かな体験活動とつなげて自分の思いや願いを書けるような学習活動の工夫。
- (3) いろいろな読書活動に参加し、読書通帳などに記録を蓄積。



【教職員による評価】A・B・C

「昨年度に比べて書く力がついてきている」と思っている方よりも、「あまりついていない」と感じていらっしゃる方が3ポイント増えています。この現状を踏まえ、分かりやすく伝える努力をしていきます。学んだことを自分の言葉で書くノート作りを目指し、「気づき」をノートにまとめています。また、家庭学習帳の使い方の工夫に努めます。

学んだことを自分の言葉で書くことができる児童が8割以上	A
活動とつなげて自分の思いや願いを書くことができる児童が8割以上	A
自分で決めた目当ての冊数を達成できる児童が8割以上	A



# 教育委員会の支援

## 学校評価とリンクした支援



## 学校裁量予算



## ★ 7 見附市共通アンケートの実施

平成22年度 前期見附市共通アンケート(児童生徒)集計 (速報)8月31日現在



見附市全体から自校を見ると・・・。

## ★ 8 SQS(アンケートシステム)の導入

- アンケート集計に多大な時間が必要



SQSの導入

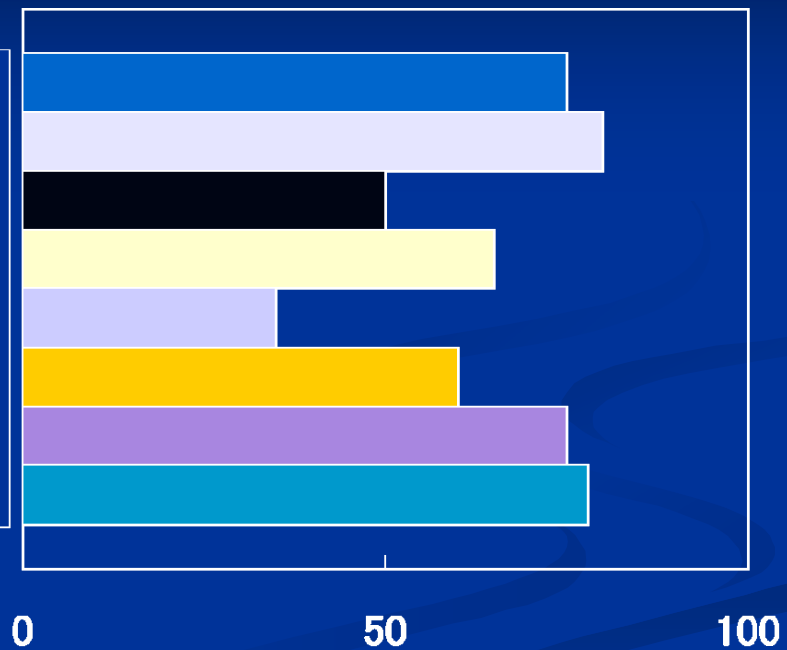
(例) 1300件で約20時間の処理時間

→ SQSの導入で約 **30分** に短縮



# 今年度中間の手応え

- SQSの導入
- 共通アンケート
- 教育委員会の支援
- 公表の工夫
- エプロン特派員
- 地域の特色を生かした評価
- スペシャルアドバイザー
- 学校評価アドバイザー



子ども笑顔につながる

「連続性・お徳感」をキーワード

「年度末評価で具体的改善策を」

ご静聴ありがとうございました